

加古川市 記事提供資料

記事提供日：令和3年2月9日

タイトル	平荘小学校の伝統文化の学び「狂言学習総まとめ『有終の会』」			
と き	令和3年3月11日（木）午後1時30分～2時40分 雨天の場合は3月15日（月）に延期			
と ころ	加古川市平荘町山角478 平之荘神社 能舞台			
主 催 者	加古川市立平荘小学校・平荘狂言教室後援会			
内 容（具体的に）	（20回目・恒例）			
【ねらい】 日本の伝統文化を調べたり演じたりすることによって伝統文化を理解するとともに、地域の文化財に興味を持ち、自分の住んでいる地域・郷土を大切に思う態度を養う。				
【実施の経緯】 以前、国語科教科書にあった狂言「附子（ぶす）」の学習を、朗読や演技を通して楽しんでいました。20年前からは、平之荘神社のご好意により能舞台で演じることができるようになった。毎年大蔵流狂言方の山口耕道先生より演技のほか、発声や所作の指導も受け、全校生や保護者、地域の方々に披露することが本校の伝統となる。平成28年度発足の「平荘狂言教室後援会」に全面的な協力をいただき、地域の取り組みとなっている。また、本年度より使用している6年生の国語科教科書には「柿山伏」が伝統文化を楽しむための教材として掲載されている。 しかしながら、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止における市教委の方針により、毎年350名以上の参加者を誇る恒例の狂言発表会を「狂言学習総まとめ『有終の会』」として下記のとおり実施する。年度当初は、2月18日の実施予定であったが「緊急事態宣言」が延長されたため、3月11日に延期した。 演者は6年生児童（27名）、観覧者は6年生児童の家族1家庭2名、平荘狂言教室後援会会長、副会長のみ。				
【内容】 ・演目 「附子（ぶす）」「柿山伏（かきやまぶし）」「山口先生の小舞」 ・その他 各自が画用紙で工夫して作成した肩衣を身につけた袴（かみしも）姿で、27人がリレー形式で狂言を演じる。毎年2月の発表会に向け1年間様々な取り組みをしている。児童は1年生の時より、先輩たちが演じてきた狂言を楽しんできており、学年が進むにつれて、6年生になったらあの舞台に立って狂言を演じるという思いを強くしてきた。この狂言への取り組みの様子は、兵庫県道徳副読本「心きらめく」（小学校3・4年）にも「ぼくの町のたからものー平之荘能舞台ー」として取り上げられている。				
参加者（対象・人数等）	児童（演者6年生のみ）27名 山口耕道先生（大蔵流狂言方） 6年生児童家族 平荘狂言教室後援会会長・副会長 教職員数名 計約90名			
問合先	部課名：加古川市立平荘小学校 教頭：阿部始郎 6年担任 田中慎一郎 / 電話：(079) 428-0014			
■市ホームページ	…	掲載済み	・ 掲載予定（○月○日）	・ <input type="checkbox"/> 掲載しない
■広報かこがわ	…	○月号に掲載済み	・ 掲載予定	・ <input type="checkbox"/> 掲載しない